

意見陳述書

2012年9月21日

佐賀地方裁判所民事部合議2係 御中

原告 麻生茂幸

(有限会社みのり農場 代表)

1(1) 私は、玄海原発から18キロメートルほどしか離れていない、佐賀県唐津市浜玉町浜崎で、有限会社みのり農場を経営しています。

みのり農場の従業員は、正社員・パートを併せて37名、現在、約1万6000羽の鶏を飼い、9反の田んぼで米を作り、6反の畑で野菜を栽培しています。

農場は、昭和31年に玄海国定公園として指定された虹の松原を北に、同じく国定公園に指定された鏡山を南に臨む、まさに国定公園のど真ん中にあり、九州有数の観光地である利点を生かし、農場の他に、主に観光客を対象に鶏めしなどを販売している「キッチンみのり」と、養鶏場でとれた卵を使用したプリンなどを売る「たまご色のケーキ屋さん」を経営しています。

麻生家は先祖代々浜崎の地で農業を営み、私も10代から家業を手伝い、昭和56年に、父から農業を受け継ぎました。私には4人子供がいますが、次男は農場経営を、長女は経理全般を、三男は「たまご色のケーキ屋さん」の責任者として、農場の近くに住居を構え、家業を手伝ってくれています。

(2) みのり農場では、①「地域循環型農場」を目指し、また、②食の「安心」「安全」「おいしい」を目指して、米や野菜の有機栽培と鶏の平飼い(放し飼い)を行っています。

①「地域循環型農場」を簡単に説明すると、鶏糞などを堆肥化し、それを肥料として米と有機野菜を栽培し、栽培した米のぬかや野菜のクズを、鶏の

飼料の一部としていることです。

②食の「安心」「安全」「おいしい」のために農場で行っている取組みの1つに、鶏の「^{ひらが}平飼い」いわゆる放し飼いがあります。通常、鶏は飼育コストを下げするため、ケージで飼育されます。外気から遮断され、日光にもあたらず、常に春の気温に空調管理された密室で飼育されているのです。

みのり農場では、16,000羽飼育している鶏の内、6,000羽は、「平飼い」を行い、外気の下、のびのびと飼育しています。

「地域循環型農場」と食の「安心」「安全」「おいしい」への取組みは、試行錯誤を繰り返しながら、30年ほどかかってようやく形が見えてきて、農場経営も軌道に乗ってきたところです。

2(1) 私は、10年以上前から玄海原発の反対運動に参加してきました。

原子力というのは人間では制御できない技術です。

万一、放射性物質が原発から漏れ出した場合、原発から18キロほどしか離れていない場所で暮らしている私たち家族の健康・生命に危険が生じるのは明らかです。私は何としてもそれを避けなければならないと思い反対運動に参加してきました。

(2) 昨年3月の福島第1原発事故により、原子力は制御できず、絶対に安全では無いということが証明されました。

私の農場は、玄海原発から20キロ以内であるため、福島第1原発事故クラスの事故が起きたら、「警戒区域」に指定され、立ち入ることができなくなるでしょう。

福島の農家が牛を置き去りにしているのが報道されていましたが、私たちも、愛情を持って育てている1万6000羽の鶏を見捨てて避難せざるをえなくなるのでしょうか。

鶏は、1年半サイクルで飼育しますが、牛は飼育に何倍も時間が掛かります。福島の方は、とても辛かったと思います。

3(1) 農家が農地を失うということは、生産の拠点のみならず、財産、人間関係、生活の基盤、生き様のすべてを根底から失うということです。

他の土地でも農業ができるとお思いかもしれませんが、農業はそんなに簡単ではありません。

農業は、軌道に乗るまで長い年月が必要です。

田んぼや畑は、土が腐熟^{ふじゅく}するまで5年くらいはかかります。

ちなみに放射性物質に汚染された表土を除染と称して定期的に剥ぎ取っていたら農業はできません。表土にこそ様々な微生物がいて、土を肥沃にしてくれるのです。

また、生産を担う人の訓練・教育にも時間がかかります。

地域の協力も不可欠です。農村社会における地域の協力体制、例えば灌漑・排水の維持管理を交代で行う「水当番」などは、江戸時代から続くものです。

地域の住民が離散した場合、新たに農業をするためにはコミュニティを作り直すため、長い年月が必要となります。

そして、生産が軌道に乗っても、生産物の販売・流通の確保など経営基盤の構築に更に時間が掛かります。

(2) 福島第一原発事故クラスの事故が発生したら、私、妻、次男の家族、長女の家族、三男は、生活の基盤と仕事を一度に失います。従業員も各地に離散してしまうでしょう。

私が40年以上かけてきた、私の人生のほぼすべてであり、先祖代々受け継いできて子供達に引き継ごうとしている農場を失ってしまうのです。

私の農場は、国定公園のど真ん中にあるため、観光地としての価値もあり、福岡など他県からもお菓子などを買いに来てくれます。私の農場の代替地など存在しません。

私の家族の生活、人生の全てといえる農場、先祖代々受け継ぐ土地を守るためには、原発の再稼働を許すわけにはいきません。

4(1) 原発の近くで農業に従事する私たちは、消費者が直接口にするものを生産しているため、福島第1原発事故クラスの事故でなくても、事故が起きて、わずかな放射性物質が漏れただけでも甚大な被害を受けます。

基準値を超える放射性物質が検出された場合、販売ができなくなります。

福島第1原発事故後、出荷制限を受けた野菜農家の男性が自殺したとの報道を耳にしました。その男性も有機栽培にこだわり、安全な野菜づくりを誇りにしていたとのこと。

農家が丹精込めて育てた作物を否定されるということは、自分自身を否定されるに等しいものです。さぞかし、落胆し絶望的な気持ちになったのだろうと思います。心からご冥福をお祈りします。

(2) みのり農場の場合、「地域循環型農業」を目指しているため、田んぼ・畑が放射性物質で汚染されると、それを餌の一部としている鶏に影響が及びます。

鶏が汚染されればその糞を肥料としている農作物に影響が及ぶでしょう。

私が目指す「地域循環型農業」には、わずかな汚染でも甚大な打撃を受けてしまうのです。

5 玄海原発がある佐賀県北部、唐津市・旧東松浦郡は、豊かな大地と、海の幸、美しい風景に恵まれた、生産地としても観光地としても九州屈指の場所です。

浜玉町は日本一のハウスマカンの産地であり、上場台地では、良質の米・野菜などが栽培されています。

肥前町・玄海町などは日本有数の肉牛である佐賀牛の産地であり、呼子のイカなど玄界灘の海の幸にも恵まれています。

かけがえのない豊かな土地、自然を、われわれは先祖から受け継いできました。このままの形で子孫に引き渡すのが我々の責務です。

そのためには、玄海原発を二度と稼働させないこと、それ以外に方法はありません。

以上